

長泉寺三十八世中興大雄弘道大和尚 十三回忌を厳修 (併修 総合落慶報告法要)

令和7年11月5日

令和七年は、平成二十五年に世寿(享年)八十六歳で遷化(逝去)された前任住職弘道和尚さまの十三回忌に正当しました。参道の紅葉も色付き始め、晴天の秋日和に恵まれた十一月五日、護持会役員を中心に第十二教区ご寺院さまの随喜(すいき・協力の意)をいただき総勢七十九名の参加を得て実施されました。

法要の導師は、京都宮津・智源寺住職三村契一老師にお願いしました。三村老師は長い間大本山総持寺の副監任を勤められ、御両尊(開祖二祖)大恩忌事業では局長として活躍されたお方です。老師の奥さまが長泉寺のお檀家の出という御縁もあって長泉寺とは長いお付き合いをいただいています。

法要の後、親しく御教示を賜りました。正法眼蔵の「主機」の巻をテーマにしたお話でした。現在お住まいの宮津は一年中湿度が高く

謹賀新年

本年も宜しく願い申し上げます

令和八年 元旦

長泉寺住職 西川一英 合掌

寺報をもって新年のご挨拶に代させていただきます



第54号
令和8年1月
〒963-7845
福島県石川郡石川町
高田271
曹洞宗高源山長泉寺
Tel・Fax 0247-26-2099

先住忌に先立ち住職が導師を勤め檀信徒駐車場・裏参道および裏

夏場の坐禅は汗との戦いとのこと、一方前任地の山梨県甲府は反対に乾いた土地で、数年前に新築した本堂の柱や梁は今でも乾燥割れするとのこと。数えて五つの寺の住職を勤めてきましたが、ここは良いとかここは悪いというような自分の思慮分別による判断はしない。むしろ全てを楽しんできた。その場その時をそのまま受け入れ生きてきたとのことでした。

どんな状況になっても全てが仏のはたらきに満ちている。仏の大きいなるいのちに生かされている。過去や未来にとらわれず、与えられた場で一所懸命生きていかなければと改めて考えさせられるお話でした。

先住忌法語

三村契一老師

堂々たる面目風雷を動かす 手を振り俱に行いて法才を養う 刹宇中興して佛種を栽ゆ 遺芳馥郁現成(来る)

堂々悠々とした生前の方丈さま、教化活動では婦人会員とともに学び歩んだお方でした。伽藍を整備し、後継者を育て禅を敷衍し仏の種を植えられました。残された徳望はいよいよ豊かに、今まさに現実に現れています。

落慶報告法要法語

長泉寺住職

楓林帯錦飾諸堂 高源山上告竣工 改観内外入円通 従此山門化愈昌

(楓林錦を帯びて諸堂を飾り 高源山上竣工を告す 観を改め内外円通に入る 此れ従り山門化いよいよ昌なり)

今まさに楓が錦を帯び諸堂を美しく飾っています。これまで行ってきた諸々の事業が無事に終了したことをご本尊さまに報告することができました。観を新たにされた長泉寺、仏の悟りの境地が広く行き渡っています。これからは仏の教えを通して人々の信心を高めていきたい。



▲ 三村老師による御教示



▲ 26人の僧侶による行道



▲ 先住さまへお茶を差し上げる三村老師



▲ 落慶法要での住職

世話人松山秀隆さん 禅師さまから表彰状

太祖瑩山禅師七百回大遠忌事業の一環として、社会奉仕活動に二十年以上携わった方を対象に曹洞宗管長猊下から表彰状が関係者に贈られました。新町地区を担当されている松山秀隆さんは保護司として二十三年間にわたり非行や罪を犯した方の社会復帰のためのボランティア活動に励まれています。外からは見えないうまい地味な活動だけに強い信念と更正への情熱がなければ続くお仕事ではありませぬ。これからもお身体を大切に活躍下さい。



▲ 墓参の様子



▲ 役員の方にご参列いただきました